

安曇野屋敷林 サポーター通信

発行日/2016年12月20日

編集・発行/屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

連絡先/安曇野ブランド担当 ☎0263-71-2053

<http://keikan-azumino.net>

第20号

「屋敷林見学会&落ち葉拾いボランティア」報告

場々 洋介

平成28年11月23日 勤労感謝の日に まちゼミの企画による屋敷林見学と重要文化財の曾根原家住宅の落葉ひろいボランティアを行いました。9名の屋敷林サポーターとPJメンバーで17名が参加いただきました。等々力邸住宅の庭は美しく年2回 庭師が入るようです。曾根原家は奥さんがおひとりで管理しているので、大変喜ばれました。



等々力家住宅



曾根原家住宅



「屋敷林見学会&落ち葉拾いボランティア」報告

林 孝彦

平成28年11月23日(勤労感謝の日)に、「安曇野まちなみカレッジ」と「屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト」による、本陣等々力(とどろき)家の見学と、国指定重要文化財曾根原家住宅の落ち葉拾いボランティアと住宅見学に参加しました。私にとっては両方とも初めてで、貴重な経験となりました。

本陣等々力家は、江戸時代、庄屋として松本藩主の野行の際の休憩所として使われた本陣で、安曇野市有形文化財の長屋門をくぐった先は、殿様座敷等四部屋を構えています。立派な庭園は桃山期の流れをくむ、地方では珍しいもので、座敷とともに江戸中期に造られたものです。古木と石組からなり、見応えがあります。門から中へ入った入り口脇のビャクシンは、安曇野市天然記念物です。本屋から土蔵につながる太鼓橋でNHK連続テレビ小説「おひさま」のロケが行われました。旧本陣をきれいに維持している管理費は大変だと思いますが、安曇野の宝として守ってきたいものです。

曾根原家住宅は、長野県中信地区に特有な民家形式である「本棟造り」の日本最古のもので、昭和48年(1973年)に国の重要文化財に指定されました。建築は1650年頃です。曾根原家は、江戸時代、代々庄屋を務めてきました。現在は奥さんがお一人で隣にお住まいです。樹木の剪定や落ち葉拾いは本当に大変だと思います。私たちみんなで落ち葉拾いをしてきれいになり、大変喜んでいただけました。安曇野の屋敷林景観の保全のためには、これからも様々な支援が必要だと思います。



「砺波屋敷林視察ツアー」参加者の感想

サポーター 降旗 朗人

この度「屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト」による、砺波・五箇山視察旅行は私にとって渡りに船の企画となりました。30年以上も前、夜行バスの朝の車窓から見た砺波平野の印象が忘れられず、再訪を考えていた矢先でした。しかも世界遺産で知られる五箇山の合掌造りの里も見られるとあって、まさに期待の旅となりました。

行程は高山経由で五箇山集落等を見て砺波市で一泊。翌日は見事な散居村を展望し、カイニョ（富山では屋敷林のこと）のある農家住宅を数軒見て長野経由豊科でした。

屋敷林に関心のある我々にとって、広々とした散居村の風景と実際に触れさせていただいたカイニョ住宅は思い出深いものとなりました。人々に感動を与える砺波のこの景観も、それを守る人々の地道な努力と苦勞の賜との事。顧みて我が安曇野の屋敷林と景観の維持はどうだろう。高速道のトンネル出て見えてきた安曇野のこの景観をもっともっと大切にしなければと思った旅でもありました。



岡本宅



岡本宅

「砺波屋敷林視察ツアー」参加者の感想

サポーター 松永 稔

屋敷林とは、単に家の回りに巡らした防風林と認識していたが、安曇野の屋敷林を巡って屋敷林にも樹種が多く、庭園と一体化、又本棟造りの家屋と共存していることを知りました。

今回、砺波屋敷林視察ツアーに参加して、砺波平野の屋敷林は、気象条件により東を除く三方をとりまくように立っていること。一般的には 防風効果だが、建築用材として杉の木。栗、柿、梅など実の出来る木。嫁入りに備えて桐の木。防火、燃料、肥料等々と、「屋敷林の多徳」と謂れていること。そして庄川の洪水災害に対処して平野の中で若干高い地を選んで家を建て、周囲を水田にした住居と水田の配置。唯一開けた東向きに家を建てている「アズマダチ」伝統的家屋「ワクノウチ」と、砺波の特徴のある散居村、屋敷林を知ることが出来ました。

安曇野の「屋敷林と歴史的まちなみ」と共に、この砺波平野の文化的景観として価値ある素晴らしい農村の厚風景と何時までも残したいと殊さらに強く感じました。



高田宅



岡本宅のワクノウチ



文責：場々